

大磯町新庁舎整備に向けての構想案(仮)

1. 町民のための庁舎を ～町民ファーストのオープンな多目的空間化～

- ・ 来庁者窓口サービスの快適さ、便利さの追求
- ・ 窓口サービス以外に町民が使えるスペースの拡充

2. 適応力のある庁舎を ～レジリエントなまちづくりの核として～

- ・ 非常時の拠点機能の維持確保
- ・ 時代環境の変容等を先取した機能対応の可能化
- ・ 式年遷宮方式（30～50年）的な建て替えを意識した敷地・外構計画

※レジリエントとは、「弾力のある」や「柔軟性がある」との意味で、災害時の拠点機能として防災や減災を考慮した適応力があること。

3. 機能優先の庁舎を ～慣習や常識にとらわれない無駄の排除と有効活用～

- ・ デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、住民にとって便利で、職員にとっても効率よく働ける機能環境空間の創出
- ・ 日常的に使用する書類等の一時保管スペースの拡充
- ・ 会議室、打合せスペース（一部可変式）の拡充
- ・ 眺望の良さを活かした屋上の有効利用

※DXとは、データやデジタル技術を活用し、組織や行政業務の仕組みを変革しつづけ、サービス・価値提供の方法を抜本的に変えること。

4. 低コスト化の実現を ～上記を廉価に実現する事業スキームの検討・採用～

- ・ 事業手法・事業費・財源調達の仕組みの検討
- ・ 既存方式にとらわれない新たな事業スキームの検討